

平成29年11月社会教育委員会議全体会 議事録

日時：平成29年11月10日（金）午後2時～2時30分

場所：さんくす3番館 4階 大会議室

永井議長：定刻になりましたので、11月社会教育委員会議を始めさせていただきます。今日現在の委員数は、12名です。本日の出席委員は9名で、委員数12名の過半数を超えておりますので、吹田市社会教育委員会議規則第3条第6項の規定により本会議は成立していることをご報告いたします。それでは、次第にそって会議を進めさせていただきますが、会議に入ります前に、お手元に配付されております資料等につきまして、事務局から確認をお願いします。

小西課長：それでは、本日、机上配付しております資料につきまして、確認させていただきます。

－ 資料確認 －

永井議長：それでは、次第にそって会議を進めさせていただきます。その前に、9月にありました近畿地区社会教育研究大会に、川上副委員長と行ってきましたので、簡単に報告させていただきます。

川上副議長：9月7日に京都でありました。全体のテーマは、「「学び合い、支え合いを育む社会教育」～未来につながる地域づくり～」で、全体会は、冷泉貴実子さんの「和歌と披講」についての講演でした。和歌の優雅さと鳥羽高等学校の生徒と一緒に歌を詠みながらの京都らしい講演でした。分科会は、第3分科会の「学校・家庭・地域の協働」に参加しました。テーマは、「学校・家庭・地域の連携協力を進める事業の実施」で、討議のポイントは、地域ぐるみの子育てを活性化させる関係者ネットワークの構築についてと子どもの豊かな学びを支えるとともに、関わる大人の学びも促進される取組についてです。問題提起者は、兵庫県上郡町社会教育委員さんと指導主事さんです。内容は、放課後子ども教室推進事業とか、吹田市も一緒ですが、学童クラブとの共催というようなことや、学校サポートネットを活用した学校支援活動とか、現在進行中のことだったので、参加者がいつもより多く、旬のテーマかと思いました。吹田で行っている「太陽のひろば」のように学校へのボランティアの派遣とか、放課後の自由遊びとかの発表がありました。田中真紀子の時代にモデルケースになって、今も積極的に行っています。地域で大人が抱える問題、コーディネーターを含めてボランティアが集まらないと言っていました。社会教育委員として、どのようにかかわっているのかという質問がありましたが、結局は、社会教育委員として、地域としてそれぞれの立場で関わっている。成果としては、社会教育とか学校教育とか、組織の仲が良くないという話もあるが、垣根を越えて、学校、家庭、地域の協力が強くなった。課題としては、ボランティアの拡大と確保が出ていました。助言者は、地域と学校ということで、コミュニティスクール、社会教育の重要性ということで、開かれた学校、社会教育と学校教育の連携と、地域における学校教育の低下の解消、子どもに係わる地域連携、体制づくりに取り組んでいけないというような話でした。実際にやっている人が、やっていることを聞いて、発言して、地域差はありながら、参考になったと思います。

永井議長：分科会は、出席できませんでした。全体会に出ました。講演者の冷泉貴実子さんは、今の日本で公家屋敷に住んでおられる方です。鳥羽高等学校の生徒さんが、烏帽子みたいなのを被

って、着物を着て和歌を詠むということをされました。一番インパクトに残ったのは、若い人が伝統を継いでいこうという姿勢があるというのがすごく大事だということ。もう一点は、和歌を含めて平安時代までの日本の文化というのは、共感の文化だと。京都で秋の季語として、鹿が鳴くというのが、私は鹿の鳴き声は、聞いたことがない。実際、鹿は鳴かなくても、鹿の鳴き声イコール秋の季語というルールで、皆に秋になったなということ共感してもらうために和歌とか文化とかがつくられてきた。ところが、江戸時代以降は、個人の中にあるものをアピールする、他者とは違う自分の個性を出す芸術が増えてきているという話をされました。なるほど、昔の日本にあった芸能は、共感を広げる教育であった。それは、社会教育と一緒に、共感層をどうやって増やしていくのか、ということを考えていくのが本質に近い話なのかなという部分で、言葉を通じて、人に伝えて、共感を得ていくことが大事だということをお話されていたと思いました。

話は変わりますが、11月3日、4日、5日と福島県の郡山へ行ってきました。PTAの関連で行きました。震災の翌年に行って、その時から聞いていましたが、熊本県の水俣市が福島と交流しています。そこで、子ども達がお互い行き来をして、熟考を重ねて、いろんなことを発表するという取り組みをされていました。なぜかというと、水俣市は、今でも水俣病というイメージが強くて、農産物、水産加工物が風評被害でなかなか売れ行きが悪い。福島も、放射能というイメージが付いてしまったので、農産物も水産加工物も売れにくいという部分で、風評被害を無くすためにはどうすればいいのかということで、いち早く協力しましょうということで、現地に入られて行き来をされている。今回、若い子ども達が、凝り固まった意見ではなく、掘り下げて今後どうするということころまでは行きつかないにしても、必死に話し合っ、熟考を重ねていっている姿というのが、すごく感動的な思いを持って帰ってきました。そこで挨拶をしたときに、あまりにもキラキラした視線が来て、いつもは大人の前で話しているので、子どものキラキラした目に上がってしまいました。これから若い世代にいかにつないでいくかということ、子ども達になにか意見を発信していく場面を与えていくことがすごく大事なことだと体感しながら帰ってきました。社会教育研究大会でも高校生が出ているのが、すごく意味があると思いました。

それでは、次第の1「11月議会について」事務局より説明願います。

1. 11月議会について

小西課長：一吹田市公民館条例変更、平成29年度補正予算について説明一

永井議長：ただ今の報告で、何か質問はございませんでしょうか。

次に、次第の2「吹田市の博物館及び文化財」について事務局より説明願います。

2. 吹田市の博物館及び文化財について

西本課長：一旧西尾家住宅、旧中西家住宅、吹田市博物館について説明一

永井議長：ただ今の報告で、何か質問はございませんでしょうか。現地で、質問させていただければよいかと思えます。現地見学について事務局より説明願います。

小西課長：このあと、旧西尾家住宅、旧中西家住宅および吹田市立博物館を実際に見学しに参ります。

配付しておりますスケジュール表に基づいて見学していただきます。委員の方々は、ワゴン車に分乗いただきまして、現地に向かっていただきたいと思います。見学終了後は、このさんくす3番館まで戻ってまいります。見学終了後、随時解散になりますので、ここで先に次回のお知らせをさせていただきたく思います。日にちは未定ですが、年明けの1月を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

永井議長：配付されている「平成29年度大阪府社会教育振興協議会北ブロック研修会」ですが、例年吹田は参加していないと言われておりますので、行ける時があれば参加してください。

小西課長：ご参加いただける方は、事務局までお知らせください。